

歴史学習での地図の活用

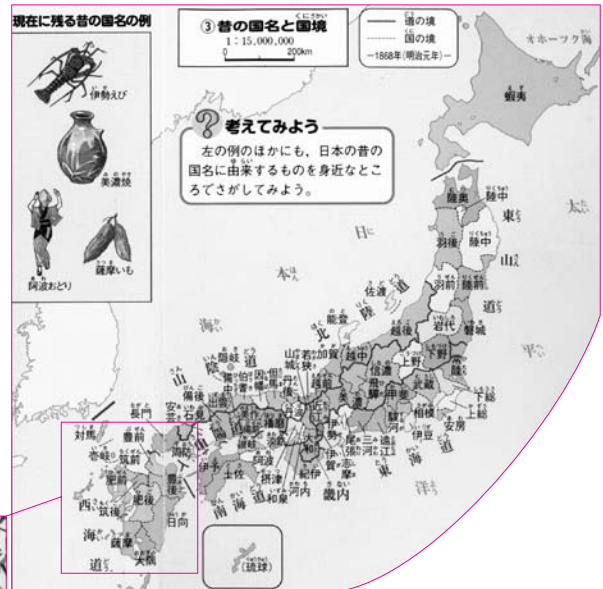
福島県三春中学校 矢吹 真

中学生の社会科の学習において、しばしば「行政」という概念が登場します。「行政」というと公民的分野の学習のように感じますが、私の場合は古代・中世・近世・近代などのそれぞれの時代の政府の組織を学習する際に、必ず「行政」という観点を踏まええます。その際、必ず地図帳を参照しています。

たとえば、奈良の律令国家の五畿七道の区分には、山陰道や山陽道、東海道など現在でも使われている行政区分がでてきます。九州地方は現在は県は七つなのに、なぜ「九州」なのかという疑問にも、奈良時代から九つの国があったからと地図帳で説明します。中世では、鎌倉や平泉、隠岐、壱岐、対馬、琉球などたくさん



の地名がでてきます。対馬や壱岐は、現在は長崎県に含まれているけれども、この時代は一つの国であったことなどを地図帳で説明します。鎌倉の所在地が京都の周辺であると誤解している生徒も多くいます。近世では、駿河の今川氏、甲斐の武田氏、安芸の毛利氏などそれぞれの大名が現在のどこの県からでた人物かを地図で確認します。江戸幕府の大名の配置についても親藩や譜代、外様が現在のどの県に分布していたのかを把握させ、租税徴収のしくみや戸籍管理、参勤交代や五人組制度など、幕藩体制について説明する際に、政府が人民を統治するためのしくみ、つまり



帝国書院『中学校社会科地図（初訂版）』p.151～152「行政」の概念をより具体的に理解できるよう配慮します。もっともよい例が廃藩置県です。廃藩置県によって地方支配のしくみが再編成されたことに気づかせ、教科書や資料集を用い、3府72県の名前を確認させます。現在の都道府県名になっているものや、町村や郡の行政区名として残っているものがたくさんあることに気づかせ、そこから合併が進み、現在の都道府県の行政区ができたことを説明します。

戦後の改革により、知事の任命制から公選制へと移行したことで、地方が行政の組織の末端であった時代は終わり、「地方自治は民主主義の学校」であることを考えさせます。このように、各時代ごとに「行政」という概念について、地図を利用し、明治以前の旧国名と廃藩置県以後の道府県名、現在の都道府県名を関連づけて考えさせるようにしています。